

～瀬戸内海クルーズの振興に向けた取組みを強化！～

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の下に「瀬戸内海クルーズ推進会議」を設立

- 平成30年6月1日(金)、愛媛県宇和島市において「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 平成30年度総会」及び「第12回瀬戸内海首長サミット」が開催されました。
- 総会では「平成30年度事業計画(案)」や新たな取組みとなる「瀬戸内海クルーズ推進会議」(※)の設立などが提案され、すべての議案が承認されました。(※)「瀬戸内海クルーズ推進会議」<別紙1参照>
- 瀬戸内海クルーズ推進会議は今後、参加を希望する会員及び会員が推薦する民間団体等を募り、今夏を目途に推進会議を設立し、「瀬戸内海クルーズ振興のための施策提案」や「瀬戸内海クルーズの広報」などに取り組んでいきます。
- 「第12回瀬戸内海首長サミット <別紙2参照>」では、「瀬戸内海の魅力を磨くには」をテーマに参加首長により議論がなされ、最後にコーディネーターである四国地方整備局次長より「それぞれの本物を大事にして、各地の魅力をネットワークでつなぎ、点が線になるような取り組みを行っていきましょう。」ととりまとめられました。

開催概要

- 【開催日】平成30年6月1日(金)
- 【場所】サブライムホール宇和島 ニュー兵頭(愛媛県宇和島市)
- 【主催者】海ネット事務局(近畿・中国・四国・九州地方整備局)
- 【参加人数】54会員約120名
- 【次第】(1)第1部 平成30年度総会及び講演会
(2)第2部 第12回瀬戸内海首長サミット

講演会

「世界のクルーズ動向と日本に求められる上質な観光ツアー」

- ・乗客が求めるのは、その土地ならではの体験や特別感
- ・瀬戸内の魅力発信、ブランド化をはかるにはチーム瀬戸内として協力体制の仕組みが大切



(講師)市川 ホーランド・アメリカ・グループ ディレクター

総会



平成30年度総会の様子



吉田 松茂町長
(海ネット:副会長)
(開会挨拶)



樋口 愛媛県参与
(来賓挨拶)



魚住 港湾局産業港湾課長
(来賓挨拶)

参加首長 (21名)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| ○大阪府 | 高石市 | 阪口 伸六 | (敬称略) |
| | 岬町 | 田代 堯 | |
| ○兵庫県 | 南あわじ市 | 守本 憲弘 | |
| ○和歌山県 | 湯浅町 | 上山 章善 | |
| ○岡山県 | 玉野市 | 黒田 晋 | |
| | 瀬戸内市 | 武久 顕也 | |
| ○広島県 | 竹原市 | 今榮 敏彦 | |
| | 坂町 | 吉田 隆行 | |
| ○山口県 | 宇部市 | 久保田 后子 | |
| ○徳島県 | 松茂町 | 吉田 直人 | |
| ○香川県 | 坂出市 | 綾 宏 | |
| ○愛媛県 | 四国中央市 | 篠原 実 | |
| | 西条市 | 玉井 敏久 | |
| | 今治市 | 菅 良二 | |
| | 上島町 | 宮脇 馨 | |
| | 伊予市 | 武智 邦典 | |
| | 八幡浜市 | 大城 一郎 | |
| | 西予市 | 管家 一夫 | |
| | 宇和島市 | 岡原 文彰 | |
| | 愛南町 | 清水 雅文 | |
| ○福岡県 | 苅田町 | 遠田 孝一 | |

「瀬戸内海クルーズ推進会議」の設立

設立の背景

- 瀬戸内海には数多くのクルーズ船の寄港が可能な港湾が存在するもののクルーズ船の寄港地が一部の港湾に限定されていること等、瀬戸内海全体としてクルーズ船寄港による各種需要をうまく取り込めていない状況である。
- 瀬戸内海のクルーズ振興についても、国、自治体、民間団体等が個別に取り組んできており、関係者が一体的にクルーズ振興するためのまとまった推進母体が存在しておらず、対外的に「瀬戸内海クルーズ」を発信する機能が不足していた。

設立の趣旨

- 瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指す。
- その取組みを通じて当該海域・地域の振興を目指すとともに世界に誇れる主要な観光圏としての地位向上を目指す。

推進会議の設立

- 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の下に、会員及び民間団体等から成る「瀬戸内海クルーズ推進会議」（以下「推進会議」という）を設立する。

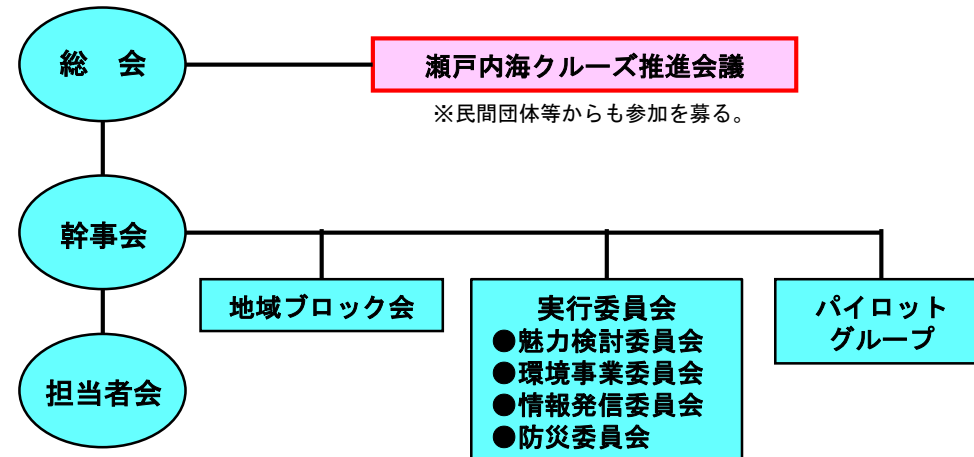
推進会議の構成員

- 推進会議は参加を希望する会員及び会員が推薦する民間団体等により構成する。
- 推進会議の事務局は、中国地方整備局、四国地方整備局、近畿地方整備局、九州地方整備局に置くものとする。なお、総括事務局は中国地方整備局とする。

推進会議の主な活動内容

- 瀬戸内海クルーズ振興のための施策提案
- 瀬戸内海クルーズの広報
- その他関連する業務

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 組織図



「第12回瀬戸内海首長サミット」の開催

○「瀬戸内海の魅力を磨くには」をテーマに参加首長(20名)により議論がなされ、最後にコーディネーターである四国地方整備局次長より「それぞれの本物を大事にして、各地の魅力をネットワークでつなぎ、点が線になるような取り組みを行っていきましょう。」ととりまとめられました。



第12回瀬戸内海首長サミットの様子



岡原 宇和島市長



阪口 高石市長



田代 岬町長



守本 南あわじ市長



上山 湯浅町長



黒田 玉野市長



武久 瀬戸内市長



今榮 竹原市長



吉田 坂町長



綾 坂出市長



菅 今治市長



大城 八幡浜市長



玉井 西条市長



武智 伊予市長



篠原 四国中央市長



管家 西予市長



宮脇 上島町長



清水 愛南町長



久保田 宇部市長



遠田 苅田町長

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(通称:海ネット)

海ネットとは

「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」(通称:海ネット)は平成3年5月に設立され、瀬戸内海沿岸市町村相互の連携により、瀬戸内海の多様な資源を活かした人の流れを創り出し、防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を図りつつアメニティー豊かな地域として沿岸地域全体の発展に資することを目的としている。

海ネットの活動指針

- 高速海上交通時代に対応した今日的意義のある「海の路の構築」、並びに地震津波に対応した防災ネットワークの整備
- 瀬戸内海の景観、歴史、文化、食、街並み等インバウンド観光時代における瀬戸内の魅力発信
- 失われた干潟、藻場の再生や災害、荒廃によるはげ山の修復等の瀬戸内海の環境創造

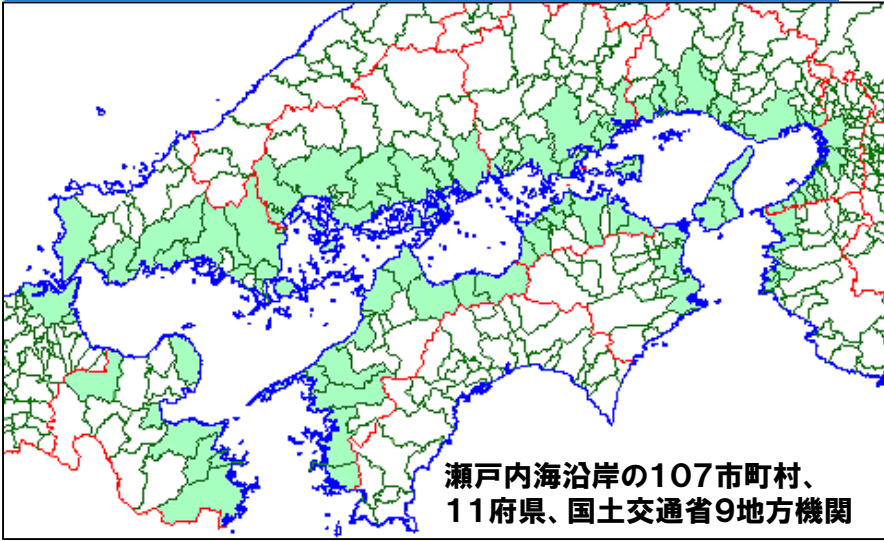
歴代会長

平成 3年～ 6年	姫路市長	(戸谷 松司)
平成 7年～ 10年	坂出市長	(松浦 稔明)
平成 11年～ 14年	小松島市長	(西川 政善)
平成 15年～ 18年	玉野市長	(山根 敬則→黒田 晋)
平成 19年～ 20年	下関市長	(江島 潔→中尾 友昭)
平成 21年～ 26年	大竹市長	(入山 欣郎)
平成 27年～	和歌山市長	(尾花 正啓) ※敬称略



海ネットのシンボルマーク

海ネット会員(127会員:平成30年6月1日現在)



瀬戸内海沿岸の107市町村、11府県、国土交通省9地方機関

協議会の実施機関となる「実行委員会」

環境事業委員会

「受け継ごう きれいで豊かな瀬戸の海」を合い言葉とした「リフレッシュ瀬戸内」や、ゴミの組成調査「海の健康診断」等を実施し、環境美化活動へ活用するため、関連する調査結果を内外へアピールする。

魅力検討委員会

「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」により会員支援を実施。また、「瀬戸内」をキーワードとした取り組みについて積極的に連携等を図り、瀬戸内の魅力を発信する。

情報発信委員会

海ネット活動の成果などの情報発信を行うとともに、他の実行委員会と連携することで、より多くの人々に瀬戸内の魅力を認識していただき、興味をもってもらえるような情報を発信していく。

防災委員会

「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」における締結拡大を図るとともに、協定運営協議会との情報交換等により、本協定の実効性の確保に向けた検討を行っていく。